

富良野市の健全化判断比率(平成22年度)

1 健全化判断比率の状況

	富良野市	早期健全化基準(市町村)	財政再生基準(市町村)
実質赤字比率 ・一般会計等の実質赤字の比率	— (赤字なし)	財政規模に応じ 11.25～15% (<u>富良野市:13.73%</u>)	20%
連結実質赤字比率 ・全ての会計の実質赤字の比率	— (赤字なし)	財政規模に応じ 16.25～20% (<u>富良野市:18.73%</u>)	40%
実質公債費比率 ・公債費及び公債費に準じた経費の比重を示す比率	11.6%	25%	35%
将来負担比率 ・地方債残高の他一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を捉えた比率	84.2%	350%	—
公営企業における資金不足比率 ・公営企業ごとの資金不足の比率 (水道、ワイン、簡水、市場、下水)	— (各々の会計において資金不足なし)	20%	—

2 健全化判断比率における各指標について

(1) 実質赤字比率

(千円)

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}(\Delta 215,579)}{\text{標準財政規模}(8,065,116)} = \Delta 2.67\% \text{ (負の値は黒字を示す)}$$

標準税収入額 2,713,037
普通交付税額 4,767,693
臨時財政対策債発行可能額 584,386

(2) 連結実質赤字比率

(千円)

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計・特別会計の実質収支、企業会計の資金不足(剰余)額の合計}(\Delta 1,620,585)}{\text{標準財政規模}(8,065,116)} = \Delta 20.09\% \text{ (負の値は黒字を示す)}$$

全会計において黒字【水道、ワイン、簡水、市場、下水 各会計において資金不足なし】

標準税収入額 2,713,037
普通交付税額 4,767,693
臨時財政対策債発行可能額 584,386

※標準財政規模: 自治体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模

(3) 実質公債費比率

3カ年平均値：11.6%(平成 20 年度:12.9%、平成 21 年度:11.8%、平成 22 年度:10.3%)

参考(下記数式は平成 22 年度)

①元利償還金の額	④公営企業の地方債償還に充てた繰出金	⑤組合等の地方債償還に充てた負担金	⑥公債費に準ずる債務負担行為	⑦一時借入金利息	-	⑧特定財源の額	⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費(準元利償還)	⑪災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑫災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還)	⑭密度補正により算入された準元利償還金	(千円)
1,338,579	+ 333,490	+ 131,833	+ 88,645	+ 0	-	(169,618	+ 191,341	+ 195,824	+ 566,332	+ 35,222	+ 8,999)	
												=10.26136%

<p>標準財政規模(8,065,116)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>標準税収入額 2,713,037 普通交付税額 4,767,693 臨時財政対策債発行可能額 584,386</p> </div>	-	<p>(191,341 + 195,824 + 566,332 + 35,222 + 8,999)</p>
--	---	---

⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費(準元利償還)	⑪災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑫災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還)	⑭密度補正により算入された準元利償還金
---------------------------	----------------------------------	-------------------	--------------------------	---------------------

(4) 将来負担比率

①地方債 現在高	②債務負 担行為に 基づく支 出予定額	③公営企 業債等繰 入見込額	④組合等 負担等見 込額	⑤退職手 当負担見 込額	⑥3セク 等の損失 補償負担 見込額	⑦充当可 能基金	⑧充当可 能特定歳 入	⑩基準財 政需要額 算入見込 額	
$10,880,399 + 153,351 + 5,181,350 + 898,949 + 3,202,660 + 20,444 - (2,400,331 + 2,099,955 + 9,880,894)$									(千円)
$\frac{\quad}{\text{標準財政規模}(8,065,116) - \text{算入公債費等の額}(997,718)} = 84.2\%$									

標準財政規模(8,065,116) - 算入公債費等の額(997,718)

標準税収入額 2,713,037
 普通交付税額 4,767,693
 臨時財政対策債発行可能額 584,386